

—農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する最新手法 GAP—

「JGAP 家畜・畜産物」基準書 完成！

—日本発の家畜・畜産物におけるGAP認証基準—

一般財団法人日本 GAP 協会（代表理事：荘林幹太郎）は、2016年10月より家畜・畜産物における JGAP 基準書の開発に向け技術委員会において検討を進めて参りましたが、この度、これまでの農産物（青果物・穀物・茶）に加えて、新たな「JGAP 家畜・畜産物」を本日公表いたしました。

◆ 開発の経緯

日本には、現在、第三者認証の仕組みを持つ畜産物の GAP を全国レベルで運営する団体はありません。しかし、畜産物における食品安全や持続可能性等の取組について、客観的な第三者認証により証明を行うことによってバイヤーや消費者の信頼を高めたいとの世界的な動向の中で、日本においてもそのニーズが高まってきております。

日本 GAP 協会では、輸出の促進が畜産物における重要な課題となっていることや2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における食材調達の議論等を背景に、畜産物についても GAP の必要性が高まっていることから、「JGAP 家畜・畜産物」の開発に取り組んで参りました。その概要は、次の通りです。

<JGAP 家畜・畜産物の骨子>

- 農場運営、食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、人権の尊重に、アニマルウェルフェアへの配慮を加えた畜産物の総合的な GAP
- 乳用牛、肉用牛、豚、肉用鶏、採卵鶏の5畜種を対象
- 審査・認証のルール等は、他の JGAP 基準に準拠

※JGAP 家畜・畜産物の基準書は、「総合規則」および「農場用 管理点と適合基準」から構成。

問合せ先：荻野（おぎの） TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: info@jgap.jp

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAX または E-mail で送付ください。）

御社名 _____ 部署名 _____ 御名前 _____
住所 _____ 電話番号 _____

◆ **JGAP 家畜・畜産物の審査のポイント**

- 基準書（農場用 管理点と適合基準）は、31 の項目、113 の管理点から成るチェックリスト形式。
- 審査においては各管理点の適合性を審査・認証機関が現場で確認。
- 認証は 2 年更新であり、中間で維持審査を実施。

※ 「JGAP 家畜・畜産物」の基準書は日本 GAP 協会のホームページをご覧ください。

◆ **今後のスケジュール**

- 審査・認証の開始に向けた審査・認証機関との調整。
- JGAP 家畜・畜産物の指導員・審査員を養成する研修の準備を進め、順次実施。
- 2017 年夏を目処に、JGAP 家畜・畜産物の基準書に基づく認証体制を構築。

(参考)

(1) 日本 GAP 協会について

日本 GAP 協会は、日本の業界標準となり、かつ世界に通用する日本の本格的な第三者認証の GAP を創り、普及することを目的として 2006 年より活動してきました。その結果、JGAP 認証農場は 4,000 を上回り、着実に支持を広げてきております。また、英語版・中国語版・ハングル版の JGAP 基準書の作成や、台湾、香港に事務所を設置し、アジアへの普及にも取り組んでおります（海外の認証農場数は、台湾 1、韓国 10、ベトナム 1）。

昨年 9 月 1 日より、日本国内の取引に加え、輸出にも対応した日本発の国際規格を目指す新たな基準書である「JGAP 2016」の運用を開始しております。

(2) オリンピックにおける食材の調達基準について

2017 年 3 月 24 日、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会により、「持続可能性に配慮した調達コード」が策定されました。その個別基準である「持続可能性に配慮した畜産物の調達基準」において食材の安全確保、環境保全に配慮した畜産物生産活動の確保、労働安全の確保および快適性に配慮した家畜の飼養管理からなる 4 つの要件を満たすものとして、JGAP が挙げられています。